

全国学力・学習状況調査について

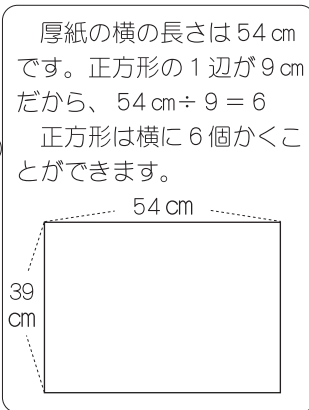
文部科学省は平成19年度から小学6年、中学3年の児童生徒を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しています。今年度は、4月19日に調査が実施され、9月29日に結果が公表されました。

資料①小学校算数Bの問題

(正答率 市39・1% 県46・6%)

はるおさんは、縦が39cm、横が54cmの長方形の厚紙1枚から1辺が9cmの正方形を24個かいて切り取ることができると気づきました。

はるおさんは、1辺が9cmの正方形を24個かくことができるわけを厚紙の縦と横の長さに着目して説明しようとしています。



はるおさんの説明に続くように、1辺が9cmの正方形を24個かくことができるわけを、言葉や式を使って書きましよう。

結果の考察(小学)

小学校は、市の平均がすべての教科で全国平均を上回り、秋田県平均と比べても同等の結果となり、良好な状況にあると言えます。

小学校国語

小学校国語は、主に活用に関する問題で県平均より高い正答率が多く見られました。

しかし、「目的や意図に応じた表現の仕方」という設問では県平均より下回っていました。取材や方法として、本や文章などさまざまなものを取り上げ、必要な事柄を収集・選択できるように指導する必要があります。また、学習形態を工夫し、取材の内容や方法を互いに評価し、目的や意図に応じたものになっているか考えることができるようにすることも必要です。



調査は国語および算数・数学について、主に知識に関する問題(国語Aおよび算数・数学A)と、主に活用に関する問題(国語Bおよび算数・数学B)となっています。さらに、児童生徒の生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も実施しています。

結果の考察(中学)

中学校は、市の平均が全国平均より下回る教科があり、課題が残る結果となりました。

中学校国語

中学校国語は、言語に関する問題は県平均並みでした。しかし、文の内容や問題の意味を正しく理解して適切なものを選択する問題には、昨年と同様に課題が見られます。

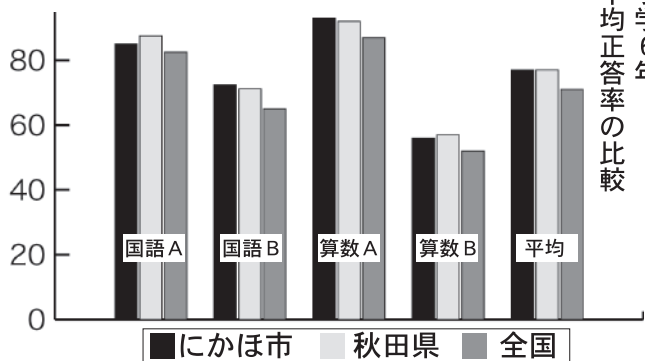
小学校での学習を踏まえて、辞書を用いて、意味について確認するだけでなく、文脈における意味についても捉えるようにするなど語句についての理解を深めていく必要があります。

中学校数学

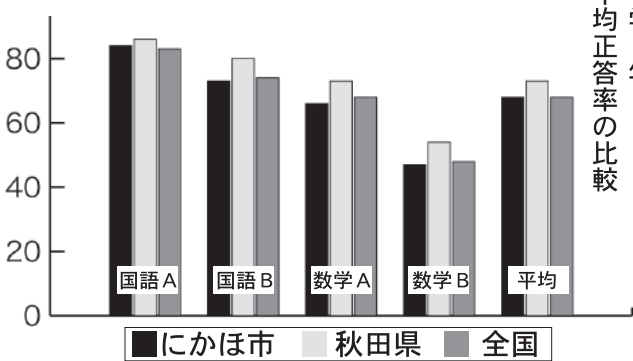
中学校数学は、基本的な知識や技能を問う問題や与えられた情報から必要な情報を適切に選択し処理する問題に課題が見られます。

数学用語を正しく身につけ、実生活の場面での問題を解決していく活動を充実させていく必要があります。

小学6年平均正答率の比較



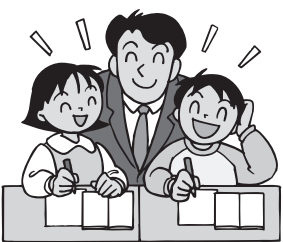
中学3年平均正答率の比較



質問紙調査

質問紙調査の結果では、小学校ともほぼすべての質問項目で良好な回答をしています。昨年度同様に、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合は、全国を20%以上上回っています。また、「自分にはよいところがある」「先生はあなたのよいところを認めてくれてる」と答えている児童生徒の割合が高くなっており、大変よい傾向と言えます。

「一日当りの携帯電話やスマートフォンで通話、メール、インターネットをする時間」が全県より多い傾向があり、家庭でのしつかりとしたルールづくりや情報モラル教育の必要性が大きくなっています。



課題の解決に向けて

今年度の調査から見られる本市の児童生徒の課題は、昨年度同様に問題文を読んで、問われていることを理解したり、自分の考えを分かりやすく説明したりすることです。

また、問題文が長くなったり、問題を解くための情報が複数になったりした場合に、正答率が低くなる傾向にあります。

国語では根拠となる表現に線を引いたり、丸で囲むなどの作業を通して理解できるようにしたり、算数・数学では、テストにおいても授業で身につけた図や表、絵などを書いたり、印や数値を書き込んだりして考える習慣も必要です。また、授業の中で筋道を立てて考え、判断の根拠を説明したり、説明を振り返ったりする場を設定することも重要です。これらの対策は、学校の授業の中で行われるべきものではありませんが、授業で学んだことをより確かなものにするためには、家庭での反復も重要となってきます。

にかほ市の未来を担う子どもたちの学力向上のために、今後ともご協力をお願いします。